

関係者各位

関西電力大飯発電所4号機に係る情報がありましたのでお知らせします。

8月6日(月)に発生した大飯発電所4号機の非常用ディーゼル発電機室排水ポンプに係る続報です。

故障の排水ポンプを工場へ運搬し、分解点検を行ったところ、メカニカルシール※面が荒れており、ポンプ軸受部の球状のころが割れていることが確認されました。

※回転する主軸と周囲の固定部の隙間を埋め、水等の漏えいを抑制させる部品。

故障した原因は、メカニカルシールの機能が低下し、軸受部に水が混入、潤滑材が流出したために、軸受と主軸に過大な摩擦が生じ、軸受が破損したと考えられます。

故障のポンプについては、8月7日(火)に予備のポンプに交換しており、排水は問題なく行われています。

今後、計画的に点検を行う等、再発防止対策の検討を行う予定です。

本件については、原因が判明したことから、本報を最終報とします。

(以下、第2報の内容)

本日(8月6日(月))8時12分に発生した大飯発電所4号機の非常用ディーゼル発電機の排水ポンプに係る続報です。

本日夕方までに、警報発生の原因と考えられる排水ポンプや関連する弁について点検を行いましたが、原因の特定には至りませんでした。

このため、明日(7日)中を目途に、故障の排水ポンプを工場へ運搬し、分解点検等、原因調査を行う予定です。

原因調査は1週間程度要する見込みです。

なお、非常用ディーゼル発電機室に貯まった水の排水については、B系の排水ポンプにより問題なく行われています。

また、B系が故障した場合に備え、仮設のポンプにより排水ができるよう措置済みです。

(以下、第1報の内容)

本日(8月6日(月))8時12分、大飯発電所4号機の中央制御室で、安全設備のいずれかの機器の停止を知らせる警報「安全系CC(コントロールセンター)負荷トリップ」が発生しました。

現場確認の結果、大飯発電所4号機非常用ディーゼル発電機室に貯まった廃水を2時間に1回程度排水するポンプ2台のうち通常使用しているA号機が停止したため警報が発報したものです。

その後、8:44頃、自動的にもう一台のB号機が起動し、排水は問題なく行われています。なお、8:23に警報はリセットされています。

本件は、原子炉の運転や、非常用ディーゼル発電機の機能に影響を与えるものではありません。

また、外部への放射性物質による影響はありません。

現在、停止したA号機について、原因を調査中です。

現在、保安検査官が情報収集を行っています。

以上